

中國の科學と文明

ジョセフ・ニーダム 著

協力

王 鈴

日本語版監修

東畑精一 戴内 清

第10卷

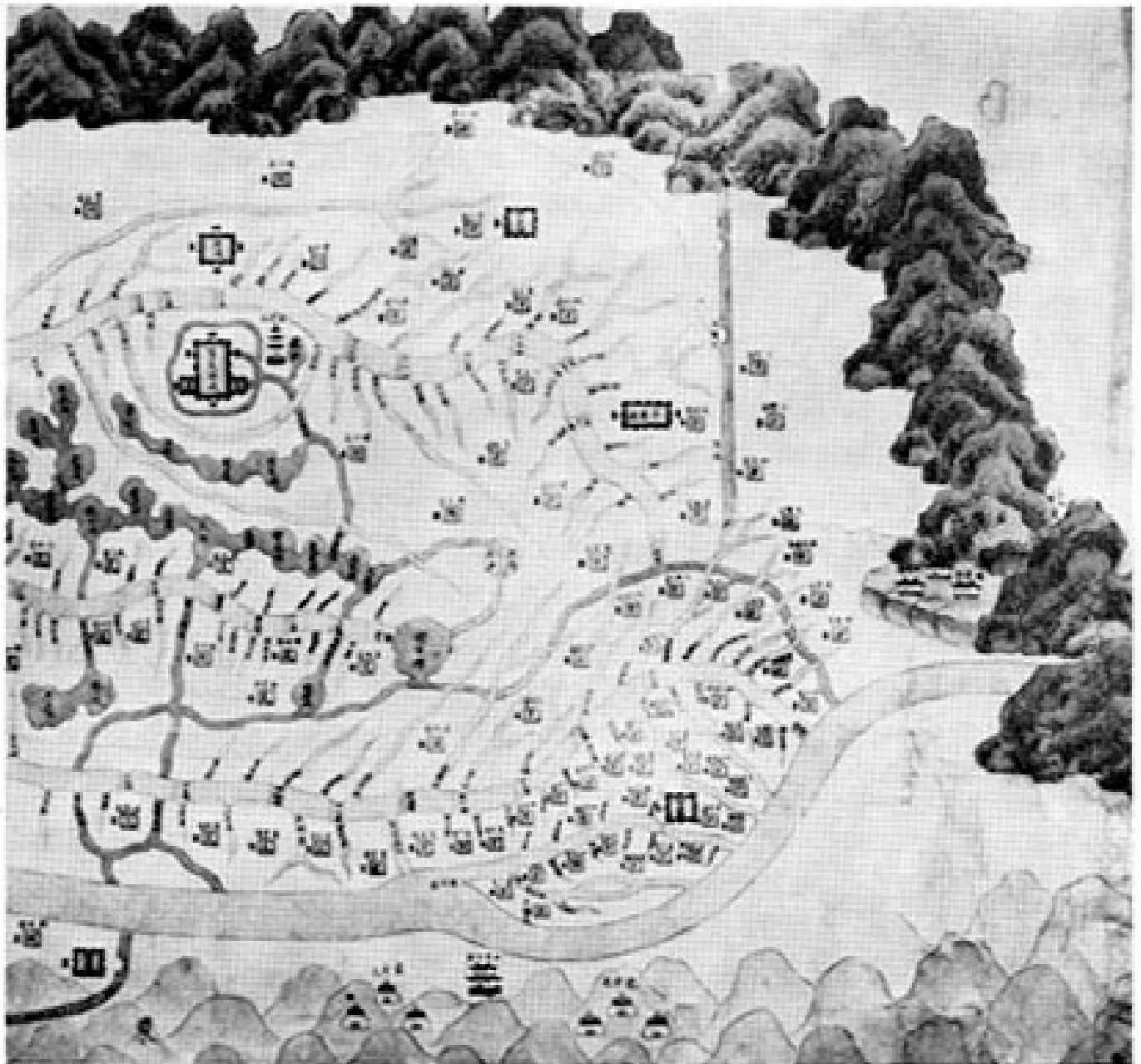
土木工学

翻 訳

田中 淡	佐藤武敏
吉岡義信	中村圭爾
森田 明	

思索社

第 CCCLXVII 葉



左側の運河が始まってすぐの地点に架かる4つの重要な橋と、およそ40ばかりの他の有名な橋が記されている。大小の道は細い破線で示されている。最も西よりの運河、唐汝渠は、省都の寧夏そのものに給水している。多くの支渠がそれらの運河すべてから出ており、そしてそのうち6つの水路は、惠農渠の主要コースの水の一部を運送渠に運んでいる。6つほどの重要な水門が示されており、そして既述の4つの主要な橋もまた、水門であったかもしれない。水路の間にある連結システムは濃い色で示されており、それらはたぶん、水位が非常に高い季節に洪水を受けやすい低い土地であることを示しているのであろう。それらのうちで最大なもの1つには、「謝官湖」という名が付されている。多くの堡壘や村、寺や塔もまた記されている。各村(包)には、それが属する町の管区を示す文字が内側に記入されている。分岐点の近くに4つの龍王廟が見られる。それは水神に捧げられているもので、水利事業のためにはたいへん重要なものである。長城のかたははるか左上、黄河がアラシャン山脈の間を流れ去るところに、まさにふさわしく、關帝廟(戦争の神の寺院)がある。写真は Alley 氏の好意による。370頁を参照。